



横浜市立汐見台中学校

# 学校だより

学び合い  
信じ合い  
高め合う  
未来を創る人となる



令和5年度 第7号 (令和5年10月31日 発行)



最優秀賞 3年3組「手紙」

## 時 繫

令和5年度 学校祭に寄せて

副校長 岡本 潔

体育祭の閉会式で生徒の皆さんに向けて、次のような話をさせていただきました。  
「汐見台の君たちは素晴らしいね、本当に一生懸命取り組んで。  
君たちの手で素晴らしい体育祭を創り上げたと思うよ。  
とても素敵だったよ。ぜひね、この取り組みを続けてよ。  
素晴らしい学校生活はこれからも自分たちの手で創り上げるんだよ。」

10月20日と23日の2日間にわたり、学校祭が開催されました。昨年度とは異なり、1日目は体育館に全校生徒が入ってのステージ発表。凄まじい熱気に包まれての開催となりました。そして2日目は横須賀市文化会館での合唱コンクール。仲間との約一か月近くの練習を経ての本番です。

この2日間、体中からあふれ出るエネルギーを存分に使いながら全身全霊で表現しようとする中学生の姿に感動しかありません。そして生徒たちのその瞬間その瞬間の表情を見ながら、仲間とのかけがえのない時間を過ごす中でこそ得られるものがあることをいつも思い知らされます。今回の学校祭を通して、「勝った」「負けた」だけではない一生残る価値あるギフトを一人ひとりが得ることができたなら、大成功だったのではないのでしょうか。汐見台の生徒たちが仲間とともに創り上げた学校祭は、本当に素晴らしい時間になったと思います。過去から未来に繋がる時の中で、汐見台中学校での経験が、豊かな人生を創造する礎になることを心から願っています。



6組手話コーラス「believe」



## R5 年度 学校祭 1 日目

表彰

横浜市  
中学校生徒  
英語弁論大会

高円宮杯全日本中学校  
英語弁論大会  
神奈川県予選会 横浜ブロック予選

3年修学旅行  
事後学習発表

国際平和  
スピーチ

オープニング  
アクト

パソコン部

演劇部

汐中

スターズ

吹奏楽部

汐中  
スターズ

## R5 年度 学校祭 展示発表

華道部

技術科

美術部

理科

## R5 年度 人権作文

10月12日(木)、今年度も人権作文の発表会が行われました。各学級の代表の生徒がそれぞれの考える人権について発表を行う中で、人権についてさらに考えを深めていく取組です。生徒の発表を聞きながら、変化の激しい時代だからこそ常に自分自身の人権感覚をアップデートするの必要を感じます。

(代表生徒の発表より一部抜粋) タイトル:「反応」 みなさんは周りからの反応を気にしたことがありますか。気にしてしまう方も多いのではないのでしょうか。私は自信が持てなくなったり意見が言いづらくなる大きなきっかけが周りからの反応だと思います。(中略) 周りは認め、プラスな反応を。その分、自分も勇気を出して意見を言ってみたり。その逆もです。みなさん、周りからの反応、そして自分がしている反応を一度意識してみてもはどうでしょうか。私もこれから常に意識していこうと思います。

### R5 年度 汐見台中学校人権作文発表会 テーマ一覧

|                 |                |               |
|-----------------|----------------|---------------|
| 多様性の区別化         | 親友と友達          | 宗教 2 世の自由と多様性 |
| 心がつかれたときには…     | 言葉じゃない、関わってみよう | 本質を見抜く        |
| 優遇は差別?          | なぜ人類は仲良くできないのか | 障害者の父と私       |
| 障害がある人への差別や人種差別 | 反応             | 三文字の言葉        |
| まわりの人の大切さ       | 国境を越えた僕のランドセル  | 祖母の幸せのために     |

発表者の皆さん、素晴らしい発表ありがとうございました。

## 私だから言えること

皆さんは、仕事や学校でこうだったらいいなと思ったことはありませんか？でも、叶わないとあきらめていませんか？

私は生徒会本部会長をしています。そこで、目安箱や日々の何気ない生徒の意見を活用し、生徒目線で学校を居心地の良い環境にすることに奮闘しています。しかし、提案しても、実現するのは難しいと、断念することが多いです。なぜ私たち中学生のやりたいことは、なかなかやらせてもらえないのでしょうか。

私は小学三年生の夏から、約二年間、イギリスの現地校に通っていました。現地校への登校初日、日本の学校生活とは違う光景に驚きました。同じ机に四人で座り、席は自由で、たまにビーズクッションに座っている人も居ました。そして授業はグループワークなどが多く、渡された問題に対して全員で解決できるまでやるような生徒が主体で動くような授業でした。他にもスライムを持ってきたり、アクセサリーを付けたりしていても先生は怒らず、むしろ先生が楽しんでいる状況でした。そんな自由でのびのびできる環境が楽しく、好きでした。そのため、帰国後の日本の学校生活に物足りなさを感じました。

日本の授業のやり方はそれぞれのレベルがあるのにも関わらず、同じレベルを求められる受動的なやり方です。例えば、英語の授業で、不規則動詞など単語を役割で分類させ、また文章構成は理論的に説明されたことに全く理解ができませんでした。なぜならイギリスでは、難しい説明はせず、自分の課題に対して自分で解決するやり方だったからです。それは、私にとっては開放的で、色々なことに興味が湧きました。そのおかげで視野が広がって、人と違った考え方や手段を選べるようになりました。

学校を建設することが平等に学習できるようになることではありません。生徒が快適に楽しく、学習に取り組めることが、平等に学習ができるということだと考えます。日本の教育水準は高いといわれていますが、私は今の学校生活はもっとより良いものになると信じています。実現するのは難しいといわれることも、私は今の環境を言い訳に諦めたくはありません。私がここまで考えるようになったのは、イギリスでの経験があったからだと思います。日本の学習に開放的なやり方が加われば、多くの人が私と同じような考えを持てると思います。そのためには本当の意味での質の高い教育を実現する必要があると思います。更に周りの大人も子供の意見に耳を傾けてほしいです。

子供と大人が、実現したらいいと思うことを共有し、無理だと諦めずに挑戦していきましょう。私とあなたの意見や行動が世界を動かすかもしれません。私はそれを信じて今日も実現したらいいと思うことを考えています。